

大学ラグビーの人気に関する考察 A study on the popularity of college rugby

1K07B202-2

指導教員 主査 石井昌幸 先生

宮澤 正利

副査 寒川恒夫 先生

【はじめに】

1964 年から始まったラグビー大学選手権大会は、今年で 47 回目をむかえる。過去には国立競技場に六万人の観客を集めるほどの大会であったにもかかわらず、昨年は二万人を割ってしまった。大学ラグビーの人気は、現在低迷している。大学ラグビーの人気を取り戻すためには、どのようなことが必要であろうか。

そこで本研究では、大学ラグビーの人気下降の要因と人気が高かった時代の理由について考察するとともに、他の大学スポーツの仕組みと比較することなどを通じて、大学ラグビーの人気を回復するための方法について考察していく。

【第一章】

第一章ではラグビーの起源について考察した。ラグビーの起源は、エリス少年がサッカーの試合の途中に興奮してルールを破り、ボールを持って走りだしたことがきっかけで、エリス少年が通っていた学校がラグビー校であることから、ラグビーが誕生したとされていたが、これは間違いであって、サッカーの試合ではなくフットボールといわれる競技の試合であったことがわかった。このフットボールというものは、中世のイングランドの街のお祭りとしておこなわれていたもので、ルールは未統一のままだったが共通していたことは一点先取で勝ちというものだった。これが、学校教育の場に登場し、ルール化されたものがフットボールである。当時はボールを持って走ることが許されていなかったのだが、これを最初におこなったのがエリス少年であるとされている。のちにこのプレーはランニングインという名で呼ばれ、以降もこれをおこなう選手がたびたび登場する。これがきっかけでラグビーというスポーツが誕生することとなった。

【第二章】

第二章では大学スポーツごとの仕組みについて考察した。大学ラグビーは大きく分けると三つの協会に分けられ運営されている。各協会ごとにいくつかのリーグ戦がおこなわれ、その上位校が大学選手権に出場する。一番人気のある試合は大学選手権ではなく、その前におこなわれるリーグ戦のなかの一つの早慶戦、早明戦である。

大学野球は春秋と年に二回全国大会があるのだが、その予選の各リーグ戦である六大学野球の早慶戦や、関西学生野球の関関戦などが人気を集めている。

また有名な箱根駅伝は、正月の風物詩でありながらも地方大会でいどのものであり、全国大会の予選であった。

これらのことから、どのスポーツも大学選手権が一番の人気を集めているわけではないことがわかった。伝統校同士の対戦や、歴史が深い大会などが人気に大きく関わっていることが明らかとなった。

【第三章】

第三章では大学ラグビーの人気について考察した。早慶戦や早明戦以外の大学ラグビーの人気は、2000 年代に入って落ちていくことがわかった。80 年代、90 年代に比べ観客数が大幅に減少していた。大学別で観客数を比較してみても、早慶明や同志社といった伝統校は平均観客数で四万人を越えているが、法政や近年の強豪校である関東学院は三万人だであり、このことから伝統校とそうでない新興勢力校とは人気に大きな差がついている。

また、80 年代、90 年代にはスター選手が大勢いたことがなかった。ここでも中心は伝統校であるが早稲田の本城選手、明治の藤田選手、同志社の林選手、平尾選手など、ラグビー界だけでなく社会的に有名な選手が多く輩出された。また、早稲田の一年生トリオ対明治の吉田といったように、良きライバル関係が生まれたことで、メディアからの注目も高まり大学ラグビーの人気に大きく貢献した。その後、新興勢力校が力を伸ばしてくる中で多くの名勝負がうまれることになる。こういったことが要因となりこの時代は大学ラグビーの人気は絶頂期であったといえる。

【第四章】

第四章ではカジュアルラグビーについて考察した。ラグビーがもっと普及していくためにカジュアルラグビーの普及が必要だと思った。オリンピック種目になった七人制ラグビーやタッチラグビー、ビーチフット、タグラグビーなどなかにはラグビーの危険要素であるタックルがない種目も多くあり、老若男女問わず様々な人々に楽しんでもらうことのできるものが多くあった。こういった種目の普及がラグビー全体の人気向上に役立つと考えられる。

【むすび】

大学ラグビーの人気について考察してきて、大学ラグビーの人気向上のためには、伝統校の活躍、伝統校同士の対戦、スター選手の登場が必要だと思われる。しかし、それだけでは日本ラグビー全体の人気にはつながらない。そのためには、カジュアルラグビーの普及が大きな力を持っていると考えられる。